

和文誌「藻類」投稿規定

1. 編集方針

日本藻類学会会則第3条および第13条に基づき、和文誌「藻類」を発行する。本誌は、本邦における藻類学の発展と普及をはかることを目的とし、和文で刊行することによりその研究内容と情報が広く効率よく伝わる報文と記事を扱う。

2. 報文と記事の区分

本誌には、他の刊行物に発表されていない以下の区分の報文と記事を掲載する。なお、複数の報文と記事からなる特集や、ミニレビュー・学術資料・記事の新しいシリーズを提案することもできる。

<報文>

- ・原著論文（論文と短報）：藻類学に関する先行研究を踏まえた独創的な研究内容で、提示するデータの質と量が十分にあり、一貫した論理性のある報文
- ・総説：藻類学に関する当該分野の現状と課題を総括し、新たな展望を提示する報文
- ・ミニレビュー：藻類学に関する最新の研究動向を踏まえた藻類学最前線、最終講義、藻類と学名などの報文
- ・学術資料：藻類学の発展に寄与する資料的価値がある希少種情報、藻類フロラ情報、学術調査記録、民俗藻類学の旅、研究技術紹介、研究手法解説などの報文

<記事>

学術集案内、参加記、博物館と藻類、研究機関紹介、藻類アート情報、藻の見遊山、遊藻子、雑録、書評、新刊紹介、学会関連記事（学会録事、総会資料、学会賞受賞記念、Phycological Research 和文要旨、大会案内、大会開催記、会員異動、学会・シンポジウム情報、学会事業案内）など

3. 原稿の受付

原稿は「和文誌「藻類」原稿執筆要項」に従って作成すること。本文を和文とし、すべての共著者が投稿に同意していること、および他誌に投稿中または掲載済みでないことを投稿票に明記した上で、デジタルデータを提出する。投稿票は日本藻類学会 WEB サイト (<http://sourui.org/publications/index.html>) よりダウンロードし、必要事項を記入・提出する。他誌・書籍からの図表の転載がある場合には必ず著者の責任において転載許可を得るとともに、転載許可を得たことを投稿票に明記する。本文は Word 等で、図は JPEG、EPS、TIFF、PDF 等の十分な画質（350 dpi 以上）で 1 つずつ別々のファイルで提出し、本文の Word ファイルなどに貼り付けない。表は基本的に Word もしくは Excel ファイルで作成する。図表の説明は本文の末尾に記載する。報文の原稿は編集委員会委員長と希望する論文通信担当編集委員に同時に、記事は編集委員会委員長に電子メールにて提出する。

<原稿送付先>

1. 委員長：

岩滝 光儀（東京大学）iwataki@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

2. 論文通信担当：報文原稿は日本藻類学会の WEB サイトの和文誌「藻類」の論文通信担当者リストから通信を希望する 1 名を選択し、委員長宛と同時に送付して下さい（特に希望がない場合は委員長宛のみでも可です）。

4. 報文の審査

報文は区分に基づく審査が、論文通信担当編集委員（編集実行委員）を窓口として 2 名以上の匿名査読者によってなされる。投稿者は原稿を提出する際に、希望する査読候補者 4 名とその連絡先を知らせることができる。審査の結果、論文の内容に問題があると論文通信担当編集委員が判断したときは投稿者にその旨を通知し、改訂を求める。掲載が不相当であると編集委員会委員長が判断した報文は理由を明記して投稿者に返却することがある。記事については編集委員会委員長が掲載の可否を判断する。

5. 投稿資格

編集委員会が依頼した場合を除き、報文および記事の著者の中には少なくとも 1 名の日本藻類学会会員が含まれていなければならない。投稿票の著者名一覧に本会会員である者を明記する。

6. 制限頁とカラー印刷

本刷（刷り上がり）の頁数で、論文は 10 頁以内、短報は 4 頁以内、総説は 16 頁以内、ミニレビュー・学術資料は 8 頁以内、記事は 2 頁以内を無料とする（学会関連記事には制限を設けない）。これを超過する場合は、著者が超過頁料金（1 頁あたり 6,000 円）を負担することで掲載を認める。1 頁の刷り上がりの文字数は図表なしで 2,700 字程度である。その他、折り込み頁、カラー印刷などの費用は著者負担とする。カラー印刷料金は 2 頁まで 1 万円である。3 頁以上は要相談。本学会の WEB サイト上で公開される PDF 版のみカラー図表を希望する場合は誌面用のモノクロ図表で審査と校正まで行い、最後に PDF 版で使用するカラー図表を提出する。

7. 別刷り

別刷り料金（円）は下記に示す表の通りである。

ページ数 部数	1-2p	3-4p	5-6p	7-8p	9-10p	11-12p	13-14p	15-16p
50部	2,100	2,100	2,900	3,700	4,500	5,300	6,100	6,900
100部	2,100	3,700	5,300	6,900	8,500	10,100	11,700	13,300
150部	2,900	5,300	7,700	10,100	12,500	14,900	17,300	19,700
200部	3,700	6,900	10,100	13,300	16,500	19,700	22,900	26,100
250部	4,500	8,500	12,500	16,500	20,500	24,500	28,500	32,500
300部	5,300	10,100	14,900	19,700	24,500	29,300	34,100	38,900
350部	6,100	11,700	17,300	22,900	28,500	34,100	39,700	45,300
400部	6,900	13,300	19,700	26,100	32,500	38,900	45,300	51,700
450部	7,700	14,900	22,100	29,300	36,500	43,700	50,900	58,100
500部	8,500	16,500	24,500	32,500	40,500	48,500	56,500	64,500

8. 著作権

和文誌「藻類」に掲載された報文・記事等のすべての著作権は、日本藻類学会に帰属する。

(2023年3月10日改定)

和文誌「藻類」原稿執筆要項

1. 原稿の構成

原著論文・総説・ミニレビュー・学術資料の構成は 1) ~ 5) の通りである。記事については最新号を参照して作成する。

1) 投稿票

日本藻類学会 WEB サイト (<http://sourui.org/publications/index.html>) よりダウンロードし、必要事項を記入する。

2) 表題等

和文：表題、著者名、所属、所属所在地、柱（20 字以内の短縮表題と著者名の略）

英文：著者名、表題、要約（総説は 300 語以内、原著論文は 200 語以内、短報・ミニレビュー・学術資料は 150 語以内。著者責任で英文校閲を受けるなど、スペルミスや文法上の誤りがないようにお願いします）、キーワード（アルファベット順）、所属とその所在地

3) 本文

緒言、材料と方法、結果、考察（または結果と考察）、（謝辞）、引用文献の順で見出しをつけて記述する。短報ではこれらの項目を区別せず、総説・ミニレビュー・学術資料などについても区別しなくても良い。本文中の文献、図および表の引用例：「…が知られる（Abbott & Hollenberg 1976, 横濱 1983, 2011, Yokohama 1989, Yokohama *et al.* 1980, 1987, 1992)。」、「岡村（1936）および鈴木（2017）には…と記載されている。」、「…がみられる（芹澤ら 2019a, b, 仲田ら印刷中）（Fig. 2)。」、「…上に出現した（Figs 4-8, Table 3)。」。本文中の文献は基本的には年代順に記載するが、単著や複著でまとめられる場合にはまとめて記す。同一年に発表された同一著者または同一筆頭著者で共著者が 3 名以上の文献については、発表年の後にアルファベットを付与する。「*et al.*」はイタリックにする。

4) 引用文献

本文中で引用したすべての文献を下記の例にならひ、和文論文も含めて著者名のアルファベット順に並べる。著者が複数の場合、2 番目以降の著者のアルファベット順とする。著者が 7 名以上の場合には、最初の 3 名に「ら」または「*et al.*」を付して省略する。なお、先行公開された電子版を引用する場合にはその DOI を記載する。冊子媒体が印刷され、電子版と冊子媒体で発表年が異なる場合には冊子媒体の発表年を引用する。引用文献に DOI がある場合はその情報を加えても良い。同一年に発表された同一著者または同一筆頭著者で共著者を含め 3 名以上の文献については、発表年の後にアルファベットを付与する。WEB サイトを引用する場合は、更新日と閲覧日を記入し、更新日の年を発表年とする（更新日の記載がない場合には閲覧日の年を発表年とする）。巻号を記載するときは、同じ巻の中で号で頁番号が振り直しになる場合は巻（号）を記述し、通し頁のものは号を省略する。また、巻がなく、号だけの雑誌の場合には、号番号のみを括弧に入れずに記述する。

例 1) 単行本の場合

Abbott, I. A. & Hollenberg, G. J. 1976. Marine algae of California. Stanford University Press. Stanford, California.

原慶明・千原光雄 1987. ラフィド藻。日本資源保護協会（編）赤潮生物研究指針。pp. 544-566. 秀和、東京。

岡村金太郎 1936. 日本海藻誌。内田老鶴圃、東京。

Phillips, J. A. 2007. Heterokontophyta: Phaeophyceae. In: McCarthy, P. M. & Orchard, A. E. (eds.) Algae of Australia: Introduction. pp. 264-287. ABRIS, Canberra & CSIRO Publishing, Melbourne.

例 2) 学術雑誌の場合

Bellgrove, A., Nakaya, F., Serisawa, Y. *et al.* 2019. Maintenance of complex life cycles via cryptic differences in the ecophysiology of haploid and diploid spores of an isomorphic red alga. *J. Phycol.*: doi.org/10.1111/jpy.12930 (注：電子版未発表の場合は、発表年の代わりに in press と表記する)

Bellgrove, A., Nakaya, F., Serisawa, Y. *et al.* 2020. Maintenance of complex life cycles via cryptic differences in the ecophysiology of haploid and diploid spores of an isomorphic red alga. *J. Phycol.* 56: 159-169. doi.org/10.1111/jpy.12930 (紙媒体が出版された後)

Curtis, B. A., Tanifuji, G., Burki, F. *et al.* 2012. Algal genomes reveal evolutionary mosaicism and the fate of nucleomorphs. *Nature* 492: 59-65.

芹澤如比古・中村誠司・加藤将ら 2019a. 富士北麓、河口湖における水草・車軸藻類と湿生植物の分布状況—2017 年—。富士山研究 13: 17-27.

芹澤如比古・渡邊亮・中村誠司・原野晃一・芹澤（松山）和世 2019b. 水草研究会第 39 回全国集会のフィールドワークで精進湖、本栖湖、河口湖から確認された水生植物。水草研究会誌 108: 13-25.

横濱康継 1983. カロチノイドからみた緑藻類の生育と進化（緑藻類の系統と進化）。遺伝 37(5): 24-30.

Yokohama, Y. 1989. Vertical distribution and photosynthetic pigments of marine green algae. *Korean J. Phycol.* 4: 149-163.

横濱康継 2011. 海藻という植物（最終回・21）海辺の「オアシス」。海洋と生物 33: 78-91.

Yokohama, Y., Hirata, T., Misonou, T., Tanaka, J. & Yokochi, H. 1992. Distribution of green light-harvesting pigments, siphonaxanthin and siphonin, and their precursors in marine green algae. *Jpn. J. Phycol.* 40: 25-31.

Yokohama, Y. & Misonou, T. 1980. Chlorophyll *a:b* ratios in marine benthic green algae. *Jpn. J. Phycol.* 28: 219-223.

Yokohama, Y., Tanaka, J. & Chihara, M. 1987. Productivity of the *Ecklonia cava* community in a bay of Izu Peninsula on the Pacific Coast of Japan. *Bot. Mag. Tokyo* 100: 129-141.

例 3) WEB サイトの場合

鈴木雅大 2017. ハネモ目。生きものの好きの語る自然誌、写真で見る生物の系統と分類。2017 年 4 月 16 日更新（2020 年 7 月 15 日閲覧）。http://tonysharks.com/Tree_of_life/Eukaryote/Plantae/Bryopsidales.html

Guiry, M. D. & Guiry, G. M. 2020. *Codium fragile* (Suringar) Hariot 1889. *AlgaeBase*. (Accessed July 15, 2020). https://www.algaebase.org/search/species/detail/?species_id=3638.

5) 図と表およびその説明

印刷される図表の幅は、1 カラム使用で最大 8.6 cm、2 カラム使用で最大 17.8 cm であり、図表の縦は、最大で 24 cm となる。図表のそれぞれのファイル名には図表を表示したい幅のカラム指定を必ず行うこと [例：Fig 1 (2 カラム), Fig 2 (1 カラム), Fig 3 (2 カラム)]。図には倍率を示すスケールを入れ、必要に応じて矢印や文字などを貼り付ける。図表の説明は基本的に英文とするが、著者の希望があれば和文のみや、和英併記も認める。なお、転載許可を得た図表を引用する場合には、転載許諾済みであることを図表の説明に記述すること（例：日本藻類学会より転載許可を得て Yokohama *et al.* (1992) より転載；reprinted from Yokohama *et al.* (1992) with permission from the Japanese Society of Phycology)。

2. 原稿作成時の注意事項

以下の点に注意して原稿を作成すること。

- 1) 本文中の句読点は「、」と「。」を用い、「、」や「。」を使用しない。「、」は、和文では全角、欧文では半角にする。
- 2) 全角の数字・アルファベットや半角のカタカナを使用しない。
- 3) 学名の使用は最新の国際藻類・菌類・植物命名規約に従う。
- 4) 本文中ではじめて使用する藻類の種・種内分類群の学名には著者名をつける。属名と形容語（種小名など）はイタリックにする。
- 5) 単位系は SI 単位を基本とし、% や ‰, °C 以外の単位は基本的に数値との間に半角スペースを入れる。原稿中で使用できる主な単位と省略形は次のとおり：時間 h, min, s；長さ m, mm, μm , nm；重量 g, mg；容積 L, mL；温度 °C；波長 nm；光強度 Wm^{-2} , $\mu\text{mol m}^{-2} \text{s}^{-1}$
- 6) 委員長が必要性を認めた場合には、図、表、動画などの補足資料（上限 100Mb）を日本藻類学会のサーバー上に置いて公開することができる。

3. 原稿の校正

著者校正是初校の 1 回のみとし、PDF ファイルを E-mail で添付するので、PDF ファイル閲覧ソフトで画面上もしくは印刷して校正し、その結果を電子メールで編集委員長が提示した期日までに編集委員長宛に返送する。校正はレイアウトおよび図表の解像度やズレ、提出ファイルからのデータ変換が正しく行われているかを確認するにとどめる。

(2023 年 3 月 10 日改定)

和文誌「藻類」の投稿先：

報文原稿は通信を希望する論文通信担当を1名選択し、委員長宛と同時に送付して下さい（特に希望がない場合は委員長宛のみでも可です）。

委員長：

岩滝 光儀（東京大学） iwataki@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

論文通信担当（2023年～）：

市原 健介（北海道大学） ichihara@fsc.hokudai.ac.jp

芹澤 如比古（山梨大学） yserisawa@yamanashi.ac.jp

仲田 崇志（北海道大学） naktak@sci.hokudai.ac.jp

秋田 晋吾（北海道大学） sakitam@fish.hokudai.ac.jp

秋野 秀樹（道総研函館水産試験場） akino-hideki@hro.or.jp

阿部 真比古（水産大学校） abemahi@fish-u.ac.jp

大沼 亮（神戸大学） ryoonuma@harbor.kobe-u.ac.jp

北山 太樹（国立科学博物館） kitayama@kahaku.go.jp

木村 圭（佐賀大学） kimurak@cc.saga-u.ac.jp

倉島 彰（三重大学） kurasima@bio.mie-u.ac.jp

島袋 寛盛（水産研究・教育機構） bukuro@affrc.go.jp

芹澤 和世（山梨大学） shiwogusa@gmail.com

豊田 健介（日本歯科大学） toyoda@tky.ndu.ac.jp

平川 泰久（筑波大学） hirakawa.yoshi.fp@u.tsukuba.ac.jp

矢吹 彬憲（海洋研究開発機構） yabukia@jamstec.go.jp

山口 晴代（国立環境研究所） yamaguchi.haruyo@nies.go.jp

渡邊 裕基（海洋生物環境研究所） yk-watanabe@kaiseiken.or.jp